

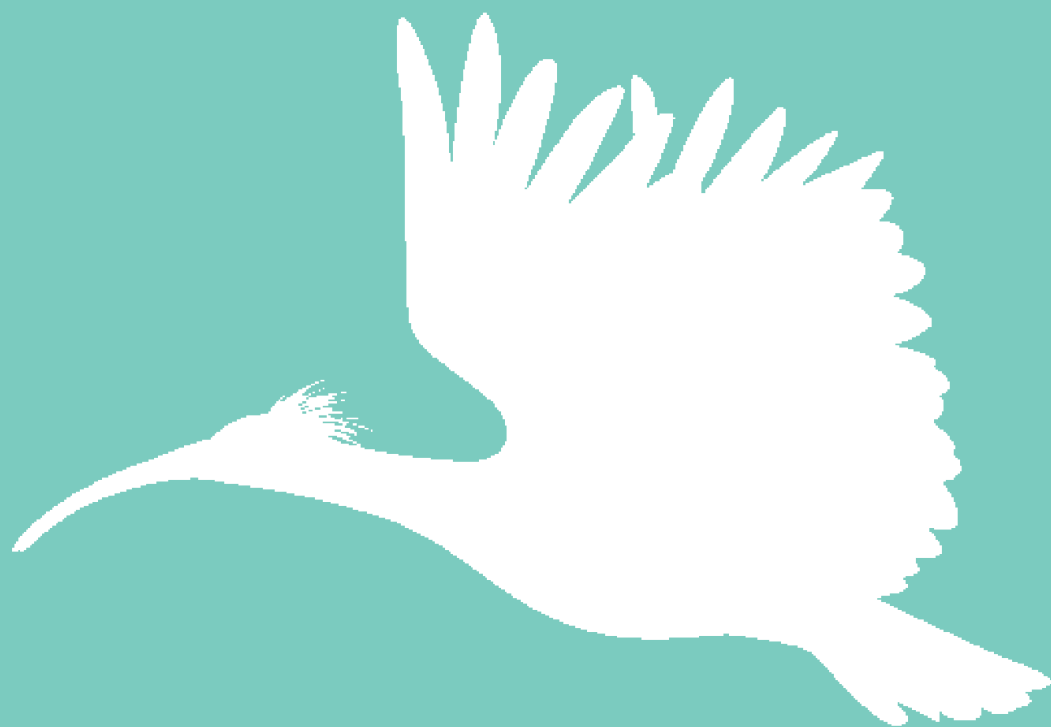
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

地域連携報告書

光華女子学園

環境報告書

令和6年度版



学校法人

光華女子学園

Index

地域連携報告書・環境報告書（令和6年度版）

1. 光華女子学園の概要	01
2. 地域連携推進センター・環境教育推進室から	02
2.1 地域とともに「健康・未来創造」を実現する大学へ	
2.2 環境教育を大事に	

地域連携報告書

3. 地域連携活動	03
3.1 地域との連携協定締結	04
3.2-1 本学の地域連携の取り組み	05
3.2-2 各学科の取り組み（一例）	07
3.3 公開講座	13
3.4 健康・未来創造キャンパスを目指して	14

環境報告書

4. エコキャンパスの推進	19
4.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量	20
① 電気エネルギー使用量	
② ガスエネルギー使用量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
⑥ 廃棄物排出量	
4.2 KOKA エコアワード	23
5. 各校園の環境教育・環境活動	27
5.1 光華幼稚園	28
① ～身近な自然となかよし～	
5.2 光華小学校	32
① 光華環境 DAY	
② 「海と日本プロジェクト in 伊根町」	
③ 林間学習	
④ 琵琶湖疏水見学	
5.3 京都光華中学校・高等学校	36
① 探究学習「京都+ベンチャー」での成果	
：QUESTCUP2024 全国大会に出場！	
5.4 京都光華女子大学・短期大学部	37
① 里山フィールドワーク	
② 光華環境 DAY（光華小学校での講演）	
③ もし巨大地震が発生したら（VR 環境・防災学習）	
④ 循環型社会を目指す取り組み	
6. 第三者によるご意見	40
地域連携報告書・環境報告書に寄せて	

2. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

地域連携推進センターは、地域との共生や活気あるエコキャンパスの実現をはかる拠点として、産官学連携によるまちづくりや地域の課題解決の他、本学の教育特性や専門的知見を活かした公開講座及びイベント等の開催を通し、地域貢献・社会貢献を推進しています。

2.1 地域とともに「健康・未来創造」を実現する大学へ

令和6年度は、葛野大路五条の交差点に面した新棟「光耀館」が完成し、「光華ワクワク×健やかフェス」をはじめとした地域の方々に向けたイベントを、この新たな拠点で行いました。第2回目となったフェスには、前年度を大きく上回る約1200名のご来場があり、また、「光華こども食堂(おいでよ!こうかわくわく食堂)」、「光華イキイキ朝市(富小路まちやキャンパス)」もご好評をいただきました。ご参加くださった地域の皆様や連携する企業・団体様のご協力に、心より感謝申し上げます。

京都光華公開講座では、「ウェルビーイングな未来へ向けて」のテーマで8講座、新たに「幼児期の発達を支える視点」をテーマとしたシリーズの4講座を開催しました。また、今年度より本センターが所管するリカレント(学び直し)教育プログラムでは、「認知症をともにまなぶ」をテーマに5講座を開催しました。その他、産官学連携プロジェクト科目や地域連携型科目等、教育面での地域連携活動も充実した内容となりました。今後も、本学の教育・研究活動を生かし、地域のみなさまとともに、「健康・未来創造」の実現へ向けて取り組んでまいります。

2025年は、大阪・関西万博が開催されます。本学は、TEAM EXPOパビリオン、関西パビリオン京都ブース等に参加いたします。「食と健康」に関する最新の研究成果を世界に向けて発信したいという、阿部敏行前学園長・名誉理事長(昨年秋にご逝去)のお志を引き継ぎ、本学の研究活動の成果の世界への発信に、チャレンジしてまいります。

引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携推進センター長
関 道子



2.2 環境教育を大事に

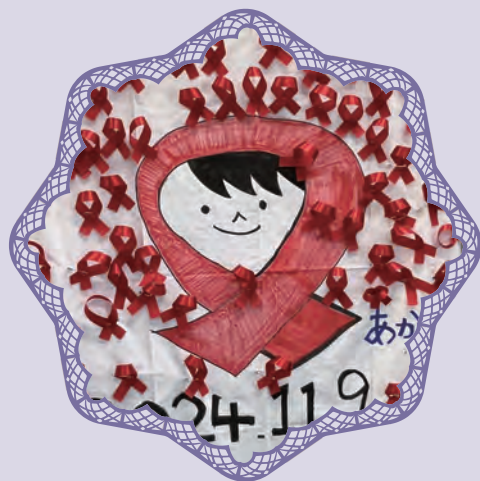
環境を大切にする本学は、今年度も環境教育に積極的に取り組んできました。そのひとつが、今回で15回目を数えるKOKAエコアワード(境教育推進室主催)です。教職員、保護者・ご家族、本学園のお取引様、そしてオープンキャンパスや公開講座などの参加者からエコ作品を募集し、1,375件もの応募がありました。KOKAエコアワードが環境を考えるきっかけになれば心からうれしく思います。環境教育の一環であるKOKAエコアワードを、今後教育効果の高い形への進化を検討していきます。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

光華女子学園の環境教育を推進してこられた阿部敏行前学園長・名誉理事長のお志を引き継ぎ、本学の環境教育をより一層進めてまいります。

環境教育推進室長
金治 宏



3. 地域連携活動



3.1 地域との連携協定締結

京都光華女子大学では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他や企業、各種団体などと連携協定を結んでいます。令和5年度・令和6年度は、下記の協定を結びました。

協定締結日	締結先	協定名
令和5年6月13日	京都市	健康創造に向けた相互連携に関する包括連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力を推進し、地域に根ざした健康増進や生活習慣病予防等に係る取組を進め、市民の健康に対する意識向上を図るとともに、本学における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民の健康維持・増進に関すること (2) 健康づくりを通じた地域の活性化及びまちづくりの諸施策の推進 (3) 健康に関する担い手育成・交流に関すること (4) その他、協議して必要と認めること 	
令和5年7月11日	京都市農業協同組合 全国農業協同組合連合会京都府本部	地域の食育活動や地産地消の推進等に関する相互連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力のもと、地域の食育活動や地産地消の推進を図るとともに、学校における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「相互連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域の食育活動、地産地消の推進 (2) 農業振興と地域貢献に向けた連携・協力 (3) (1) (2) 及び「食」に関わる研究成果の発信等による地域の活性化及びまちづくりの推進 (4) 上記の活動において地域に貢献できる人材の育成 (5) その他、協議して必要と認めること 	
令和5年10月4日	公益財団法人京都市スポーツ協会	健康・未来創造に関する包括連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力を推進し、健康及びスポーツの普及・振興、地域に根ざしたさまざまな課題解決、学校における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民の健康維持・増進に関すること (2) 健康及びスポーツに関する地域の活性化と人材育成・交流に関すること (3) 高齢者のフレイル予防に関すること (4) 生涯学習に関すること (5) その他、協議して必要と認めること 	
令和6年1月25日	京都ハンナリーズ（運営会社：スポーツコミュニケーション KYOTO 株式会社）	健康・未来創造に関する包括連携協定書
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において相互の人的・知的資源に関する連携協力を推進し、健康及びスポーツの普及・振興、地域に根ざしたさまざまな課題解決、学校における教育内容の充実や教育上の課題解決に向けて取り組み、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康及びスポーツに関する地域の活性化と人材育成・交流に関すること (2) 市民の健康維持・増進に関すること (3) 明るい地域社会づくり・街づくりに貢献すること (4) 地域の子どもたちの健全な発達・発育に関すること (5) その他、協議して必要と認めること 	



協定締結日	締結先	協定名
令和6年10月29日	京都ダイハツ販売株式会社	包括的な連携に関する協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において双方の人的・知的資源を活用し、連携して地域のさまざまな課題や学校における教育内容の充実や教育上の課題解決を図る協働の取組を推進することで、双方の充実・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取組事項</p> <p>(1) 地域、暮らしの安全・安心に関すること</p> <p>(2) 人材育成に関すること</p> <p>(3) 地域の活性化や市民サービスの向上に関すること</p> <p>(4) 教育研究活動に関すること</p> <p>(5) その他、協議して必要と認めること</p>	

【これまでの締結一覧】

協定締結日	締結先	協定名
2010年11月7日	葛野学区自主防災会	葛野学区自主防災会との協定 - 大規模災害発生時における地域協力に関する協定 -
2011年11月4日	右京区役所、5つの大学	右京区大学地域連携に関する協定（5つの大学：京都外国語大学、嵯峨美術大学、花園大学、京都先端科学大学、立命館大学（2015年4月8日京都学園大学を追加））
2013年7月17日	高知県嶺北地域観光・交流推進協議会	嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する協定
2014年3月8日	右京区役所、右京消防署	右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」
2014年5月30日	京都府立東稜高等学校	京都府立東稜高等学校との協定
2015年12月8日	京都市教育委員会	京都市教育委員会との相互連携に関する協定
2017年7月19日	京都府右京警察署	地域の安全・安心等に関する協定
2018年4月1日	株式会社ノーリツ	株式会社ノーリツとの「おふる部」に関する覚書
2021年5月14日	京介食推進協議会	京介食推進協議会と産学連携プロジェクトに取り組むための包括協定
2021年10月7日	株式会社エイデル研究所	リカレント教育「次世代ケアワーカー育成プログラム」に関する協定書
2022年3月1日	京都市	京都市と京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部とのふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等に関する協定書
2022年6月24日	第一生命保険株式会社	地域社会の活性化及び発展に貢献することを目的とした「包括連携協定」

3.2-1 本学の地域連携の取り組み

■ 産官学連携プロジェクト

地域連携推進センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は、大学の基礎・教養科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。実際の課題をプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を養成すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、地域の企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

2024年度に開講された「産官学連携プロジェクト」

a	<p>テーマ：・子ども食堂の役割を理解する ・地域との関わりを通じた学びと成長</p>	<p>連携先：ハピネス子ども食堂（京都市南区）</p>
	<p>担当教員：金治 宏（キャリア形成学科）</p>	
	<p>子ども食堂に焦点を当て、注目を集める社会的背景や居場所づくりについて学び、その運営やネットワークづくりについて考察する。さらに、地域との交流を通じてプロジェクトの実践力を身につける。</p>	
b	<p>テーマ：地域との連携を通じた学びと成長</p>	<p>連携先：京都市右京区地域介護予防推進センター</p>
	<p>担当教員：関 道子（福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻）</p>	
	<p>地域の高齢者の方々を対象に、口腔機能の低下を予防し、いつまでもおいしく安全に食べ続けることの啓発を行う活動に取り組む。2018年から学内で運営している介護予防サロンを企画・運営し、地域との実践的な連携、工夫や経験を通じて、地域の高齢者の方々を対象に、口腔機能の低下を予防し、いつまでもおいしく安全に食べ続けることの啓発を行う活動に取り組む。大学で行う介護予防サロンを企画・運営し、地域との実践的な連携、工夫や経験を通じて、プロジェクト実践力やコミュニケーション能力を養成する。</p>	
c	<p>テーマ： 「私たち目線」で提案する仁和寺のプロモーション展開</p>	<p>連携先：真言宗御室派仁和寺</p>
	<p>担当教員：朝比奈 英夫（キャリア形成学科）、大島 祥子（キャリア形成学科）</p>	
	<p>世界遺産・仁和寺をフィールドにして、文化財の保存と活用、世界遺産としての魅力や課題を学び、学生目線で発信する企画と実践を行う</p>	
d	<p>テーマ：地域との連携を通じた学びと成長</p>	<p>連携先：高齢者福祉施設「西院」、 京都市内の地域活動拠点</p>
	<p>担当教員：越智 紀子（福祉リハビリテーション学科 社会福祉専攻）</p>	
	<p>ソーシャルワーカーとともに、「地域共生のまちづくり」に向けた、こども食堂、タウンミーティング、イベント等の活動に取り組み、実践に必要な力を身につける。</p>	
e	<p>テーマ：地域との関わりを通じた学びと成長</p>	<p>連携先：EXPO KYOTO</p>
	<p>担当教員：高野 拓樹（キャリア形成学科）</p>	
	<p>2025大阪・関西万博を契機に、京都の「文化・環境、産業、観光、地域」等について、俯瞰的に知見を得ると同時に、未来や世界を切り拓くための「問い」を立て、多様な人・物・事との出会いと実践活動を通じて、提案を取りまとめる。</p>	

【産官学連携プロジェクト活動の様子】



産官学連携プロジェクトの様子



3.2-2 各学科の取り組み（一例）

本学では正課科目「産官学連携プロジェクト」だけでなく、各学科の特性・専門性に応じて、さまざまな企業や団体などと連携した取り組みや授業を実施しています。

I.食に関する連携

【イオンリテール株式会社との連携】「そうだ、野菜とろう！弁当」の販売
担当教員：齊藤 曜子、小島 菜実絵、下山 亜美（健康栄養学科）

京都市による『そうだ、野菜とろう！』キャンペーンに合わせ実施されている、イオンリテール株式会社と管理栄養士養成校3校（本学・同志社女子大学・京都女子大学）による産官学連携の弁当販売企画に4年連続で参加しています。令和6年度は健康栄養学科4年生が、『レモン香るチキンとカラフル野菜弁当』と『彩り野菜と梅おろしカツ弁当』（各 [598 円+税]）のレシピを考案・商品化しました。



【JA 京都市・JA 全農京都との連携】「みのるダイニング京都ポルタ店」での京野菜メニューの開発・販売
担当教員：原 正美（健康栄養学科）

健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻2年生の正課科目「京都の食文化」にて、連携協定を結ぶJA 京都市とJA 全農京都の協力のもと、京都府内で生産される季節の京野菜について学び、栄養学の観点から京野菜を活用したメニュー開発を行いました。本科目を受講する9名の学生が考案したメニューが、産学連携メニューフェアとして、JA 全農京都が運営する「みのるダイニング京都ポルタ店」にて採用され、実際に販売されました。



【京都ハンナリーズとの連携】新しい飲食メニューの開発
担当教員：船越 達也（健康栄養学科）

本学の協定先である地元京都のプロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」と健康栄養学科 船越 達也 教授のゼミ生が地域経済の活性化や地域住民の交流機会の創出などを目的に、京都ハンナリーズのホームゲーム観戦来場者をターゲットとした新しい飲食メニュー開発に取り組みました。「京都らしい」「ハンナリーズらしい」「女性ファンに選んでいただく」といったコンセプトのもと、JA 京都市様から提供いただいた地元の京野菜をふんだんにつかった「京風ミネストローネ」と「京豆乳のクラムチャウダー」を開発し、販売しました。



京だしを使用し大根がゴロッと入ったミネストローネ

牛乳ではなく京豆乳を使用し京野菜を使用したクラムチャウダー

ハンナリーズ型のニンジン入り
650円
(学内先行販売価格)

京風ミネストローネ

京豆乳のクラムチャウダー

京都ハンナリーズ × 京都光華女子大学
コラボメニュー！！

学内 @学内パンダキッチンカー
1月8日(水)・1月15日(水)

京都ハンナリーズ試合会場 @かたおかアリーナ京都
2月1日(土)・2月2日(日)

食材協力：JA 京都市（京都市農業協同組合） *メニュー画像はイメージです

【招徳酒造株式会社との連携】若い女性に好まれる日本酒の開発
担当教員：呉 鴻、高野 拓樹（キャリア形成学科）

近年、日本国内における若者の日本酒離れの傾向が見られる中、キャリア形成学科の学生有志10人が、若者の日本酒ファンの獲得と伝統産業としての酒造りを継承することを目指し、若い女性に好まれる日本酒の開発に取り組んでいます。2023年3月に京都伏見の酒蔵・招徳酒造株式会社との協同で京都府産米100%を使用した純米吟醸「光 HIKARI」と純米大吟醸「華 HANA」を開発しました。地域の方を招いて試飲会を開催し、感想などの調査から改良したり、より飲みやすくなるようにカクテルの組み合わせを試してみたりと精力的に活動しています。





【JA 京都中央との連携】JA 京都中央連携プロジェクト「京おくら」の普及促進
担当教員：桑島 千栄（ライフデザイン学科）

①「京おくら」を食べよう～レシピ開発・品評会

「野菜をおいしく食べよう～「京おくら」を使った料理」と題して、学生たちが京おくらの良さを活かしたレシピを考え、実際に試食品評会を行いました。JA 京都中央にご提供いただいた京おくらを料理した学生たちからは「柔らかくて下茹でがいらぬ」「おいしい」の声が、品評会に参加いただいた JA 京都中央の職員様・京都市 / 京都府関係各所の皆様・京おくら生産農家の方からは、「多様な調理法でどれもおいしい」と好評いただきました。

②「京おくら」PR 販売

京都駅地下街京都ポルタの「みのりカフェ」前で、学生たちが京おくらのPR販売を行いました。①の活動で学生たちが考えた京おくらのオリジナルレシピのパフレットを配布しながら、来場者に美味しく食べる方法を提案するなどして、JA 京都中央の職員様とともに京おくらの魅力を発信しました。

①②の活動について、JA 京都中央が主催する「第3回 JA 京都中央京おくら生産者技術交流大会」に参加し、京おくら産地との地域連携活動について、各種の課題解決に向けた報告を行いました。



■ II.医療・福祉に関する連携

【右京区役所との連携】性感染症およびこころの健康に関する普及啓発活動
担当者：廣田 直美（看護学科）



京都市右京区役所が主催した「性感染症およびこころの健康に関する普及啓発活動」ブースに、看護学科2年生4名と教員1名がボランティアとして参加しました。この活動は学生が性感染症やこころの健康について関心を持ち、正しい知識の理解と自身の健康について考えることを目的とし、学生は本活動の周知や世界エイズデーフラッグづくりなどを行いました。当日は100名ほどの来場があり、学生はフラッグに京都市のエイズ啓発キャラクター『あかりん』を描き、来場された皆さんには世界エイズデーのシンボルマークであるレッドリボンをそのフラッグに貼っていただきました。完成したフラッグは、出町柵形商店街や京都市右京中央図書館、右京区役所内に展示されました。



【地域の在宅医・訪問看護師との連携】在宅人工呼吸器装着者の災害時の対策
 担当者：西田 美紀（看護学科）

防災への知識と災害の備えに向けた平時からの地域交流を目的に、地域の在宅医・訪問看護師と連携し、本学で「在宅人工呼吸器装着者の災害時の対策」の研修会を開催しました。災害支援における地域包括ケアシステムに教育機関も参入する形で行われた研修会には、68名（医療・福祉従事者、当事者・家族、看護教員、看護学生）が参加しました。当日は、在宅医療災害対策アドバイザー／臨床工学技士（防災士）の井上勝哉先生による「在宅人工呼吸器装着者の災害支援－避難先と非常電源について考えてみよう！－」をテーマにした講義や、本学の在宅看護学教員による「防災ポーチ作り交流会」を行いました。



【Ghoonuts 株式会社との連携】失語症向けの訓練アプリの開発
 担当者：大橋 良浩（福祉リハビリテーション学科言語聴覚専攻）

言語機能向上の機会の創出を目指し、脳刺激技術を活用した事業を展開する Ghoonuts 株式会社と本学の言語聴覚専攻は失語症者向けの言語トレーニングアプリの有用性に関する共同研究を行っています。本学の言語聴覚専攻には失語症に関して臨床的、学術的知見が豊富な言語聴覚士及び高次脳機能障害を専門とする医師などが在籍しています。こういった本専攻の特性を生かし、臨床および学術的観点からトレーニング内容を監修し、重度・中等度の失語症向けの訓練アプリ「コトサブ」をリリースしました。



■ Ⅲ.地域に関する連携

【京都府右京警察署との連携】「平安なでしこ交番」の見学
 担当教員：谷本 拓郎（心理学科）

本学は、京都府右京警察署と「地域の安全・安心等に関する協定」を締結しており、それぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実を図っています。本学の近隣にある「西五条交番」は、ストーカーや DV、性犯罪などの被害対応、女性・高齢者・お子さんからの相談に女性警察官が 24 時間対応可能な「平安なでしこ交番」となっています。専門ゼミにおける体験的学びの一つとして、当交番に勤務する女性警察官の方から実際の業務ややりがいについての講話を受講し、さらに、科捜研（科学捜査研究所）による鑑識体験を行いました。「平安なでしこ交番」という京都特有の犯罪臨場現場を訪れ、「女性警察官」だからこそ果たすことができる役割について理解を深めました。





【京都府警察本部との連携】痴漢・盗撮防止に向けた啓発動画・ポスターの制作
担当教員：谷本 拓郎（心理学科）

本学 心理学科「犯罪心理ゼミ」の3・4年生15人が中心となり、京都府警察本部人身安全対策課と協働で、痴漢・盗撮被害防止を目指した啓発動画・ポスターを制作しました。性犯罪被害の抑止は国家の重点課題の一つである中、近年SNS等で、「絶対に遅刻できない」という受験生の弱みにつけこんで、受験当日に試験会場に向かう受験生を狙った痴漢・盗撮を唆す悪質な投稿がなされています。大学入学共通テストをはじめとした受験期に向けて、京都府警察では駅施設や電車内での痴漢・盗撮事犯の撲滅を掲げ、受験生が安心して受験に臨めるよう、京都府警察、鉄道事業者、本学などの産学官連携により痴漢・盗撮事犯の抑止対策を強化しました。今回制作した動画は学生が中心となってシナリオ・構成・キャスティングなどを行い、ポスターについては現場警察官の意見を踏まえてデザインし、作り上げました。学生制作の動画は京都駅「コトチカ京都」内の電子看板などで公開され、ポスターについてはJRや阪急、京阪などの10駅18カ所に設置されました。



【右京区民生児童委員会との連携】第15回 右京サンサにここ広場への参加
担当教員：柳生 和代、西野 夕子（こども教育学科）

右京地域体育館において右京区民生児童委員会が主催した「第15回右京子育てサロン サンサにここ広場」にこども教育学科の3年生4人が参加しました。学生たちが内容を検討し、手作り壁面や折り紙で作ったプレゼントを作成するなどして、乳幼児（0～3歳）とその保護者を対象とした親子触れ合い遊びコーナーを担当しました。当日は絵本の読み聞かせや体操・歌遊びなど、親子で触れ合う遊びを行い、多くの方に楽しんでいただきました。遊びの間には、参加された保護者様と話を交わしたり、子どもたちと遊んだりして過ごし、子育て支援の一端を担う場となりました。



【京都府宮津市との連携】 宮津の体験価値をデザインする 若者が住みたくなる体験と場所づくり
 担当教員：羽深 太郎（ライフデザイン学科）

ライフデザイン学科デザイン企画分野の「ユーザー体験価値デザインⅠ・Ⅱ」の授業を通じて京都府宮津市における若者移住者の増加について取り組みました。前期は若者の活動の場所づくりとして「島崎ちしや」シェアスペースのDIY作業に9名の学生が参加し、テラスと茶室の改装に取り組みました。後期は宮津市で収穫されたレモンの収穫・加工を39名の学生が体験し、レモンを活用した地域に根付いた商品開発を学び、SNSを通じて地域と商品の魅力を発信しました。



■ IV.環境に関する連携

【京都ハンナリーズとの連携】 ユニフォーム・練習着のアップサイクル
 担当教員：宮原 佑貴子（キャリア形成学科）

キャリア形成学科の宮原 佑貴子 講師のゼミ生（4年生）が、本学の協定先である京都ハンナリーズの協力のもと、ユニフォームと練習着のリメイク制作に取り組みました。提供いただいた役割を果たしたユニフォームと練習着をベストジャケットやロングスカートといった日常的に着用できるカジュアルウェアにアップサイクルし、梅小路公園で開催された「循環フェス」のステージイベントファッションショー「FASHION DAY by FSHIRUF」において披露しました。さらに、かたおかアリーナ京都でおこなわれた京都ハンナリーズのホームゲームのハーフタイムにおいて、制作者と学生モデル4名（健康スポーツ栄養専攻4年生）による成果披露を行いました。会場に設置した展示ブースでは、サポーターの方からさまざまな好意見をいただきました。取り組みを通じて、選手とサポーターの熱い思いが詰まったユニフォーム・練習着の、アップサイクルによるさらなる可能性を感じることができました。





3.3 公開講座

本学では、本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として公開講座を開講しています。「健康・未来創造キャンパス」を目指す本学は、令和5年度に続き「～すべての人が健やかに暮らせるウェルビーイングな未来に向けて～」をテーマに、人々の”健康”と”未来”を支える人材育成に取り組む本学ならではの視点で「Well-being」について考えました。また、幼児期のお子様がいる保護者を対象に「幼児期の発達を支える支援」というテーマで、さまざまな学科の教員が多様な視点で子どもたちの健やかな未来について考えるシリーズ講座を開講しました。



公開講座（令和6年度）

実施日	講座タイトル・講師
5月18日 (土)	ウェルビーイングな社会を求めて - 仏教が提示できる視点 小澤 千晶 (キャリア形成学科 准教授/真宗文化研究所 所長)
	ウェルネスツーリズム：バリ島と京北地域 酒井 浩二 (人間健康学群 教授)
6月8日 (土)	ヨガ・マインドフルネス 谷本 拓郎 (心理学科 講師)
	ICT (情報通信技術) を使って「MY 学習プラン」を立てよう 全 京和 (こども教育学科 准教授)
7月6日 (土)	おいしく食べて健康に生きる 井上 富雄 (歯科衛生学科 教授)
	人の感性をデザインする 車のデザインから食品の食感まで 羽深 太郎 (ライフデザイン学科 講師)
9月21日 (土)	認知症とフレイルを防ぐ中国伝統医学の方法を体験してみませんか？ (第2弾) 細川 昌則 (看護学科 教授) 呉 小玉 (看護学科 教授)
10月19日 (土)	脳健康一きほんのき 西川 智文 (健康栄養学科 教授)

シリーズ講座：幼児期の発達を支える視点

6月29日 (土)	子どものそだちを支えるために大人にできること 大谷 多加志 (心理学科 准教授)
	昭和・平成・令和 ことばの発達ブラッシュアップ かわったもの、かわらないもの 水谷 八千代 (言語聴覚専攻 講師) 英 香里 (言語聴覚専攻 助教)
7月13日 (土)	子どもの育ちを応援する作業療法:幼児期の運動発達 (お着替えやお箸、お絵描きやはさみの使い方の支援) 北山 淳 (作業療法専攻 教授/特別支援教育 専門作業療法士) 森本 かえで (作業療法専攻 教授)
	子ども発達が心配になった時にどうしたらいいの？ 浜内 彩乃 (社会福祉専攻 准教授)

3.4 健康・未来創造キャンパスを目指して

京都光華女子大学では校訓「真実心」のもと、すべての人が健やかに暮らせる“Well-Being”な未来の実現を目指し、「人々の“健康”と“未来”を創造する女子大学（≒健康・未来創造キャンパス）」創りを進めています。医療、福祉、栄養、スポーツ、教育、心理、社会、マネジメント、ライフデザインなど幅広い分野の研究・教育を通じ、人々の「健康」と「未来」を創造する女性を育成して社会へ貢献し、地域に寄り添い、社会の要請に応える、さまざまな取り組みを実施しています。

■ 地域連携学生組織「光華リエゾンクラブ」

「光華リエゾンクラブ」では、地域のさまざまな世代の人々と交流するイベントなどの企画・運営を学生メンバーが主体的に行い、人と人をつなぎながら地域の課題に取り組んでいます。ボランティア活動のほか、地域の方のWell-Beingに寄り添うイベント・取り組みをさまざま行っています。

例：光華ワクワク×健やかフェス学生実行委員、光華こども食堂プロジェクト、い光華！万博プロジェクト 等

■ 「光華ワクワク×健やかフェス」の開催

地域交流の場として本学を開放し、「健康・未来創造キャンパス」の実現に向けた教育・研究活動を紹介することを通じ、地域にお住いの方が「来場された時よりも健やかでワクワクした気持ちになれる1日を作る」というコンセプトのもと開催しています。当日は幅広い年齢層の方々にお楽しみいただけるような催し物や体験イベントを実施。本イベントは本学だけではなく地域のさまざまな団体・企業・組合様とともに作り上げています。



■ 「光華こども食堂」の開催

“誰もがワクワクできる場所に”というコンセプトのもと、「栄養」や「福祉」「子ども」に携わる学生を中心として、学年や学部を超えて学生と教職員が子どもたちの居場所作りに取り組んでいます。毎回、テーマを設けて、こどもたちが喜ぶメニューや楽しめる企画を検討して実施し、令和6年度は「夏をもっと楽しむ」「ときめきチョコレートパーティー〜ありがとうを伝えよう〜」というテーマで、年に2回本学主催のこども食堂を開催しました。





■ 「光華イキイキ朝市」の開催

「光華イキイキ朝市」は、「食と健康」「伝統産業」をテーマにした新たな地域交流イベントとして開催しています。富小路まちやキャンパスを会場に、JA京都市と共催で開催し、当日は京都の地元の旬野菜販売や「京介食（京都の介護食）推進協議会」によるブランド品の「やわらか和菓子」・介護スプーンの展示・販売に加え、医療福祉系専門職を目指す学生たちによる地域の健康増進に繋がる取り組みも実施しています。令和6年度は言語聴覚士を目指す学生たちによるオーラルフレイル（お口のフレイル）予防の取り組みや作業療法士を目指す学生たちによる専用の機械【Inbody】を使った健康状態（筋肉量など）の測定等を行いました。



■ 認知症普及啓発のための取り組み

「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を開院する等、地域の認知症予防に取り組んできた本学は、認知症普及啓発活動にも積極的に取り組んでいます。令和6年度は本学作業療法専攻と地域連携推進センターが協力して、学内向けに「認知症サポーター養成講座」を開催したり、若年性認知症本人交流会「おれんじサロンひと・まち」と協働してより良い地域社会について考える機会として「誰もが自分らしく暮らせるまちづくりミーティング」を開催しました。



■ リカレント教育プログラムの実施

誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指し、社会人向けにリカレント教育プログラム「共に生き未来を創るウェルビーイング講座」を開講しています。令和6年度は「認知症」をテーマに、認知症についての正しい知識や、症状に対する対応などを学びました。

■ 大阪・関西万博への参加推進

本学は、「食のバリアフリー化の技術開発と普及促進」というテーマで嚥下調整食・機能性食品開発・普及促進についてステージ発表・展示を行う他、5大学連携プロジェクト、関西パビリオン京都ブースでの展示で大阪・関西万博に参加します。

参加予定日：6/5（木）、6/29（日）、7/28（月）～8/3（日）、8/25（月）～8/31（日）



血糖値上昇抑制効果がある希少糖を使用した羊羹



ミネラル・食物繊維が豊富な「キハダ」の葉を利用したカヌレ



飲み込みやすさに配慮した「嚥下調整食和菓子」

【新校舎“光耀館”完成記念イベント】

■ 「みんなでワクワク！親子スイーツ教室」の開催

本学作業療法専攻と協働して「みんなでワクワク！親子スイーツ教室」を開催しました。本学作業療法専攻では発達障害児とその家族の共育ちを目指し、それぞれの特性を生かした作業療法や家族を支援する力を身につけ、こどもの発達障害に強い作業療法士を養成しています。当日は放課後等デイサービスに通っておられるお子様と保護者の方が参加され、専門作業療法士（特別支援教育）・製菓衛生師等の資格を持つ教員のもと、「どらやき」づくりを行いました。学生たちも企画のサポートを行い、地域の方と直接交流することで、作業療法士として学びが多い機会となりました。どらやきづくりの後は、感覚統合療法に使用するクライミング・ウォール体験も行い、参加した子どもたちはとても楽しく過ごされていました。



■ 光華もの忘れ・フレイルクリニック

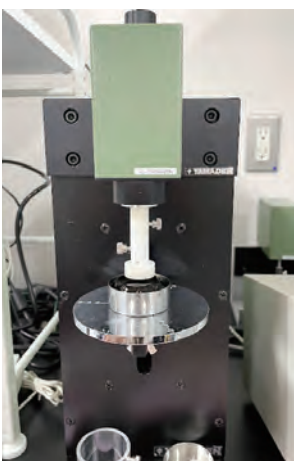
もの忘れ予防等の支援により、地域の方の健康増進・地域医療の発展に貢献するとともに、大学の併設施設として、医療・福祉に関する教育・研究を実践するため、令和3年11月に、「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を開院しました。常に地域社会とリアルにつながる環境で実践教育を行い、多職種連携や在宅ケア等に有効な実践力・応用力の養成を推進しています。



■ 基幹研究「高齢者向け食品（機能的食品・嚥下調整食品）の開発と情報提供体制の構築」

摂食嚥下機能が低下した方に向けた嚥下調整食や、機能的食品の種類や普及が充分ではない情勢を受け、これらの食品の開発と普及活動を産学連携によって推進する研究を行っています。今年度は、機能的和菓子（希少糖羊羹）の効果検証、新たな機能的和菓子（コラーゲン羊羹）の開発、京都の有名店の和菓子の物性評価及びウェブでの情報公開の準備、硬さに配慮したお好み焼きの物性評価等を実施しました。いずれも、産学連携活動を基盤とした研究活動で、EXPO 2025大阪・関西万博で成果の公開を予定しています。

基幹研究「高齢者向け食品（機能的食品・嚥下調整食品）の開発と情報提供体制の構築」	
研究担当	吉川 秀樹（健康栄養学科 教授） 関 道子（福祉リハビリテーション学科言語聴覚専攻 教授） 下山 亜美（健康栄養学科 准教授） 橋口 美智留（健康栄養学科 准教授） 二井 麻里亜（健康栄養学科 講師） 羽深 太郎（ライフデザイン学科 講師）



和菓子の物性測定



学生による官能評価

4. エコキャンパスの推進

第15回 KOKAエコアワード
ポスター部門 金賞

「はじめよう地球のためにリサイクル」



第15回 KOKAエコアワード
作品部門 金賞

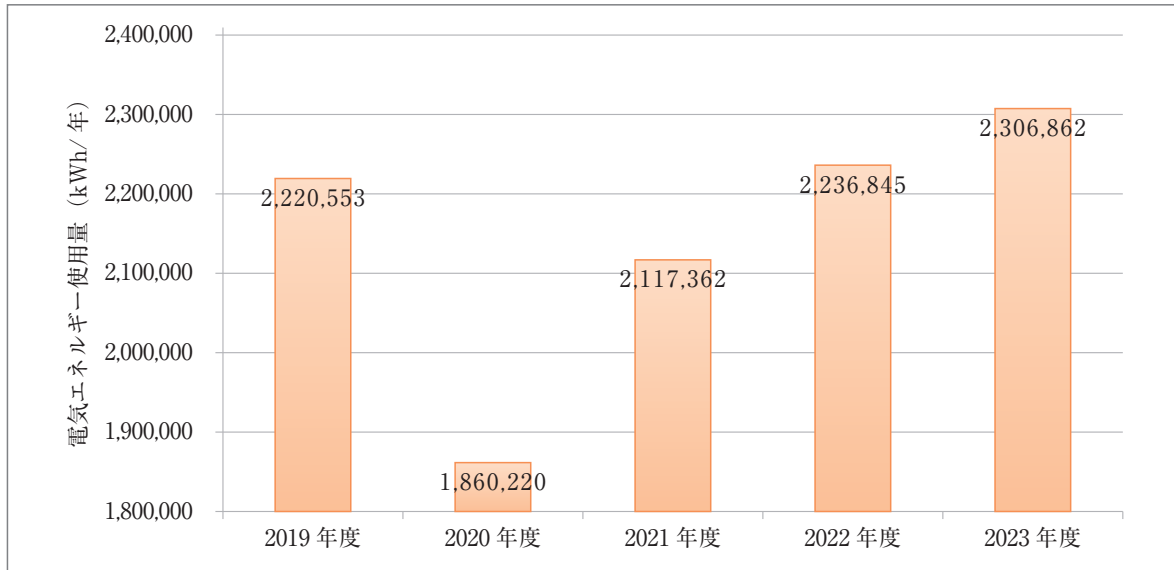
「きずつけないで！ ぼくのきれいなしぜん」





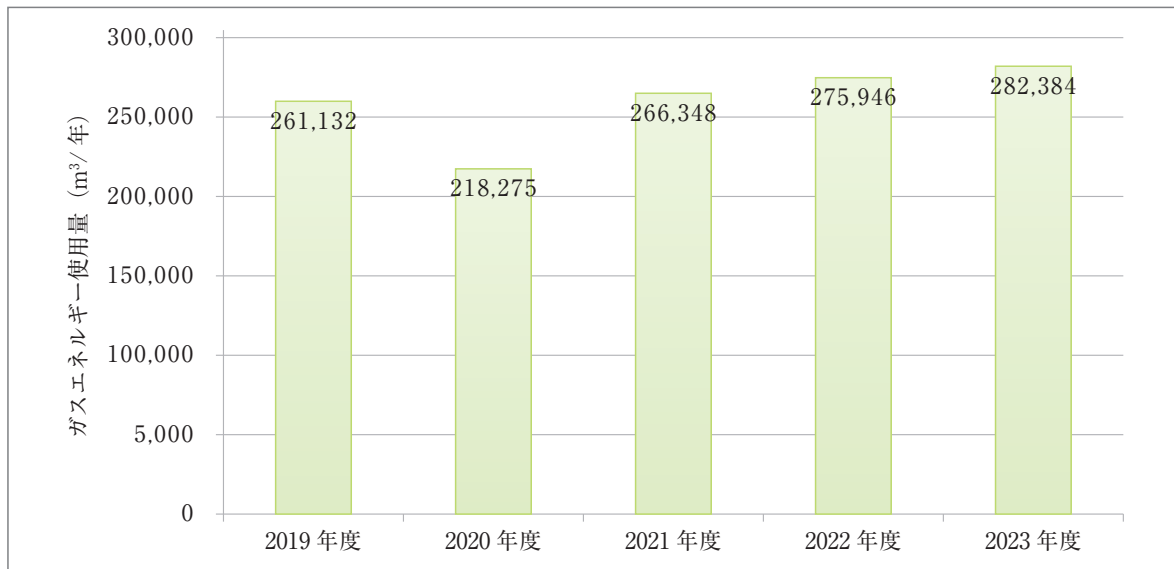
4.1 学園における各種エネルギーの使用状況

① 電気エネルギー使用量



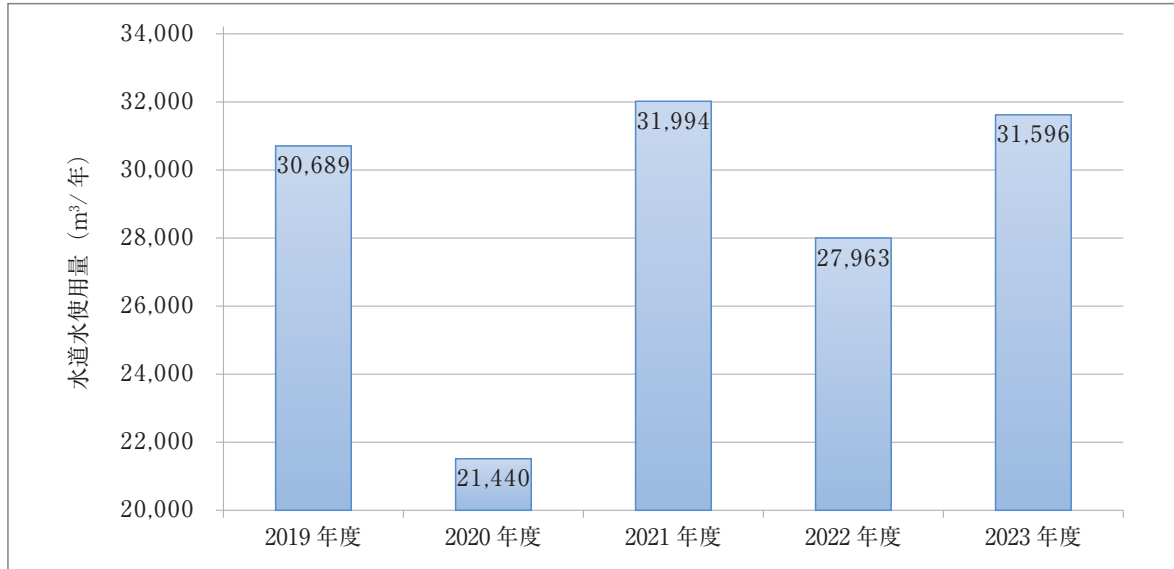
学園全体における電気エネルギー使用量は2019年度以前（新型コロナウイルス感染拡大以前）より、減少傾向にありました。節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。2020年度の急激な減少と2021年度の増加については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学で完全オンライン授業を実施していたものが、対面授業が再開されたことに起因しています。近年の異常気象と気候変動に伴う急激な温度上昇により、夏場の熱中症対策が重要となっており、この影響でエアコン等での対策のため、少しずつ電気エネルギー使用量が増加傾向に転じています。引き続き、熱中症対策など体調管理とのバランスを見ながら節電対策に努めてまいります。

② ガスエネルギー使用量



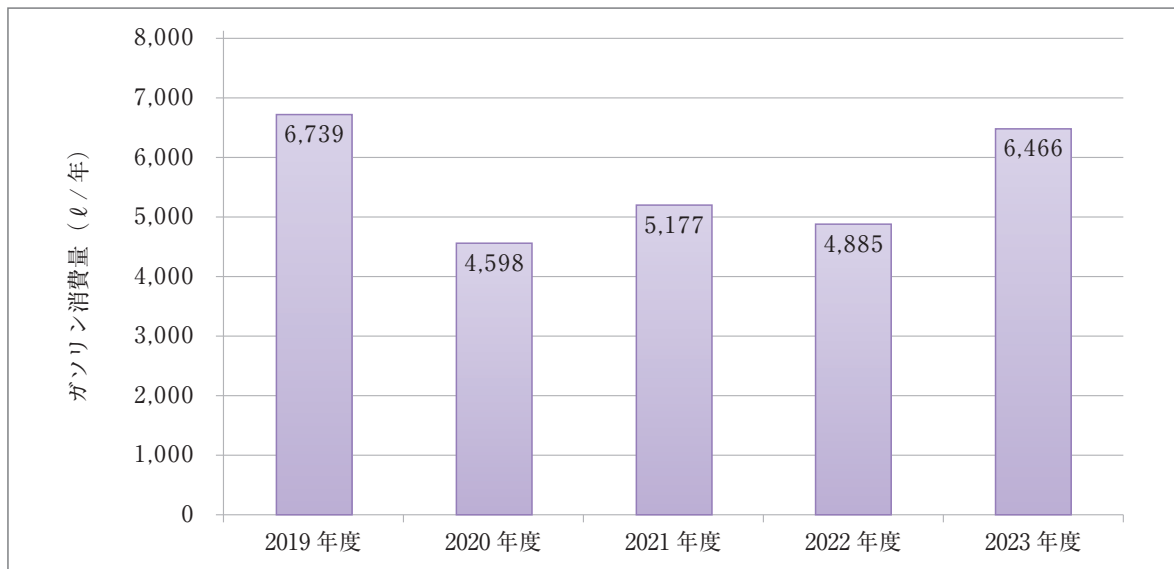
ガスエネルギー使用量についても、電気エネルギー使用量と同じ傾向にあります。2020年度の急激な減少と2021年度の増加については、新型コロナ感染ウイルス感染拡大防止のため、大学で完全オンライン授業を実施していたものが、一部対面授業が再開されたことが起因しています。

③ 水道水使用量



学園全体における水道水使用量は、電気・ガスエネルギーと同様に、2020年度の完全オンライン授業と、2021年度の一部対面授業の再開が反映された結果となっています。2017年度以前の水道水使用量と比較すると直近5年間の使用量は減少しています。しかしながら、水道使用量も近年の異常気象と気候変動に伴う急激な温度上昇等により、夏場の熱中症対策等の影響で若干の増加傾向が見受けられました。

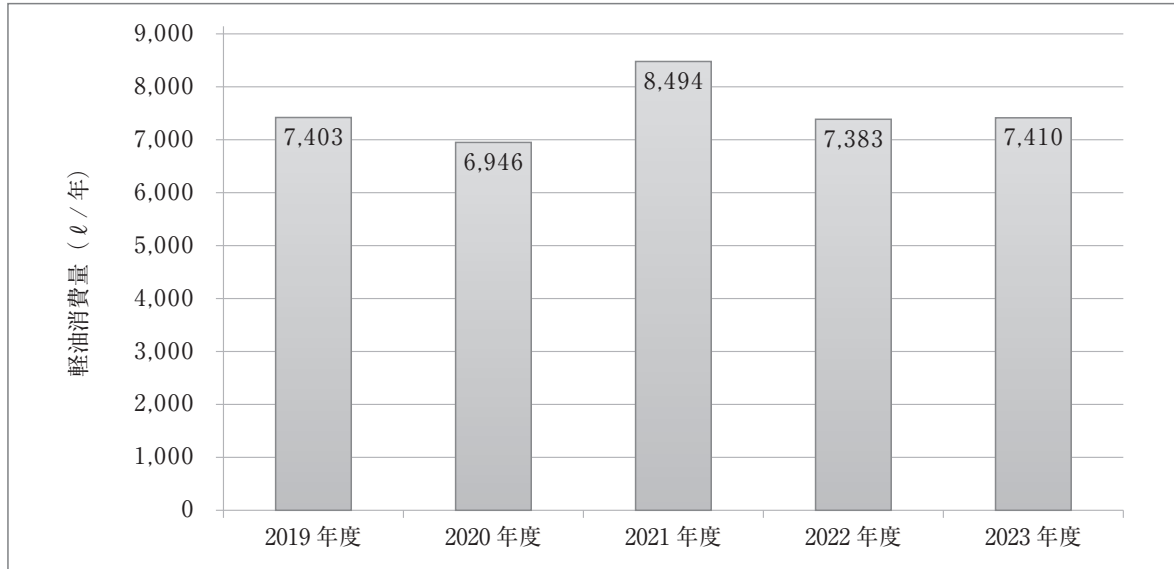
④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は学生募集活動のための公用車の使用によるものです。こまめなアイドリングストップなどといったエコ運転を心がけて、消費量の抑制に努めています。しかしながら、ガソリン消費量も近年の異常気象と気候変動に伴う急激な温度上昇等により、夏場の熱中症対策等の影響で若干の増加傾向が見受けられました。なお、2020年度が最小値となった背景には、新型コロナウイルス感染防止の観点から、対面での学生募集活動が制限されたことによるものです。



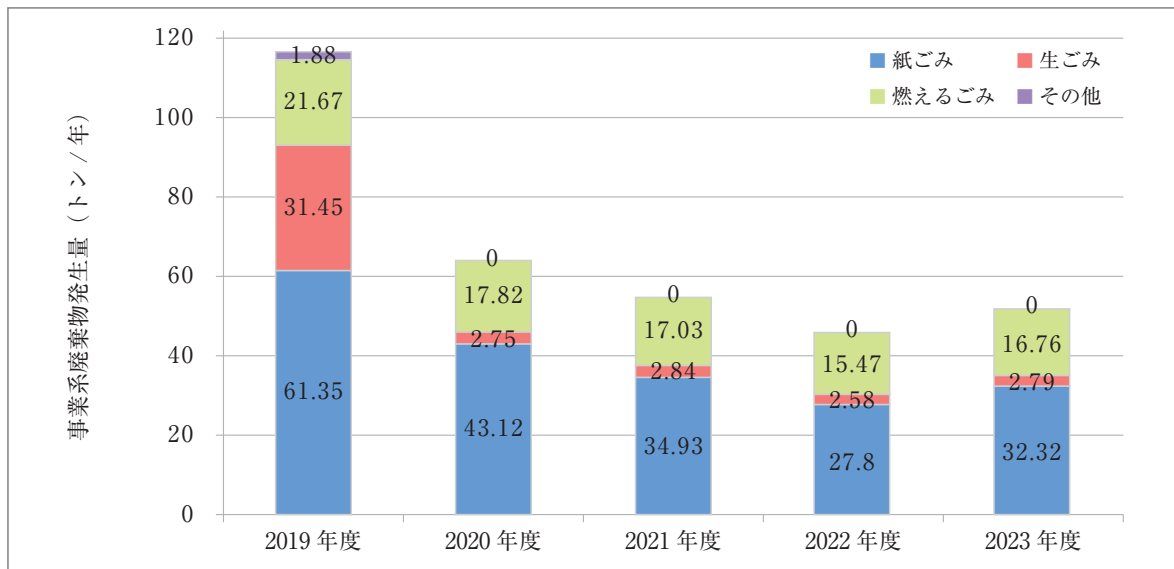
⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。こまめなアイドリングストップ等といったエコ運転を心がけていることで、軽油消費量は前年度から大きな変化はありませんでした。2021年度は、コロナ感染防止の観点から送迎バスの座席数を減らし、園児の送迎回数を増やしたことにより軽油消費量は増加しています。

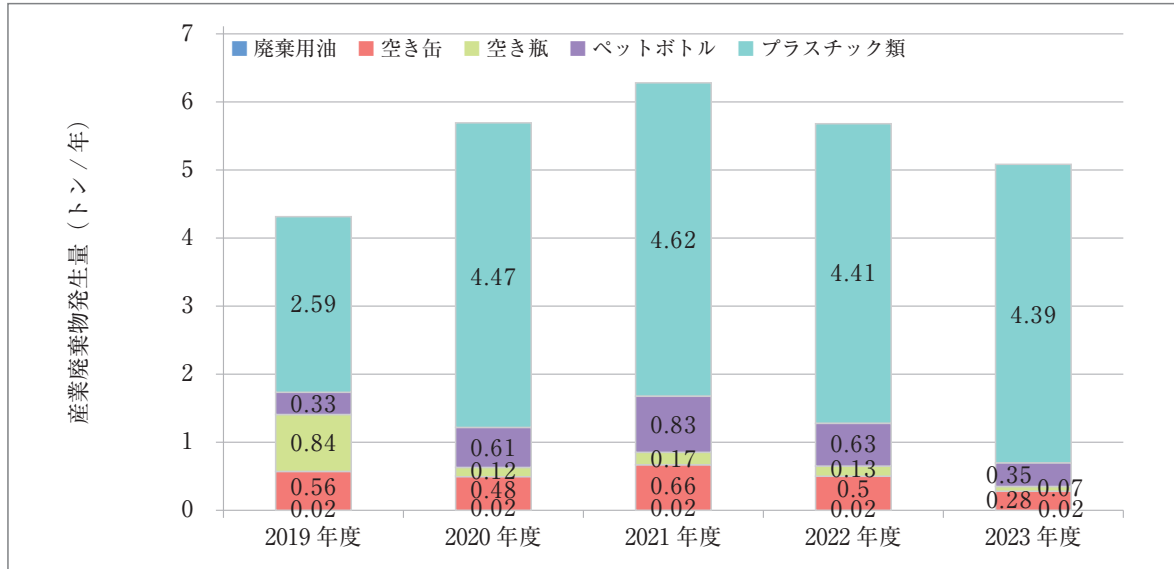
⑥ 廃棄物排出量

● 事業系廃棄物



事業系廃棄物発生量はコロナ禍以前と比較し全体的に減少傾向にあります。項目別に見ると、特に全体の中でも割合の大きい紙ごみが減少しています。減少した要因は、ペーパーレス化の推進と燃えるごみ・生ごみに混在する紙ごみ（いわゆる雑紙）を分別により資源化したことによるものです。徹底した分別により、ごみをごみとしてではなく再資源化する取り組みを今後も推進していきます。

●産業廃棄物



2023年度の産業廃棄物発生量は前年度に比べて、廃棄用油を除く、すべてのゴミ類（空き缶、空き瓶、ペットボトル、プラスチック類）が減少しています。後述のKOKAエコアワードでは、海洋プラスチック汚染等の減らしていきたいという作品が多く応募されています。15年にわたって実施してきたエコ意識の啓発活動が学園の園児・児童・生徒・学生・教職員の行動に結びつき、ゴミの減少に繋がったと考えます。

4.2 KOKA エコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、今年度で15回目を迎えました。この取り組みは幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。また、本学園に関係するすべての方、本学園が取り組む環境活動に関心のある方、本学園のお取引先様など募集範囲を広め、「標語・短歌（和歌）部門」へのエントリーを可能としています。「標語・短歌（和歌）部門」に関しては、応募フォームを作成し、HPやチラシをご覧いただいた方にも、パソコンやスマートフォンから気軽にご応募いただけるような仕組みで、幅広く皆様へのエコ活動の啓発に取り組んでいます。

今年度は皆様から合計1,375件の作品をご応募いただき、優れた作品に対して表彰をおこないました。

標語・短歌（和歌）部門

100年後も200年後もその先も、みんなが生きられる地球のために

第15回

KOKAエコアワード

作品募集

金賞受賞者には、図書カード5,000円と副賞を贈呈！
【第一生命特別賞】もあります

募集期間：6月17日(月) ~ 9月30日(月)

応募資格：本学園の学生（幼稚園を除く）
本学園のお取引先など本学園に関係する方
本学園が取り組む環境活動に関心のある方

応募方法：メールで応募または右のQRから

第15回KOKAエコアワード
申込フォーム

厳正なる審査にて入賞者を決定し、
表彰式を実施いたします

【お問い合わせ】 学校法人光華女子学園 環境教育推進室内 KOKAエコアワード事務局
TEL : 075 (325) 5315 (平日9:00~17:00)
mail : chiiki@mail.koka.ac.jp <https://www.koka.ac.jp/crc/>

GOALS

光華女子学園印

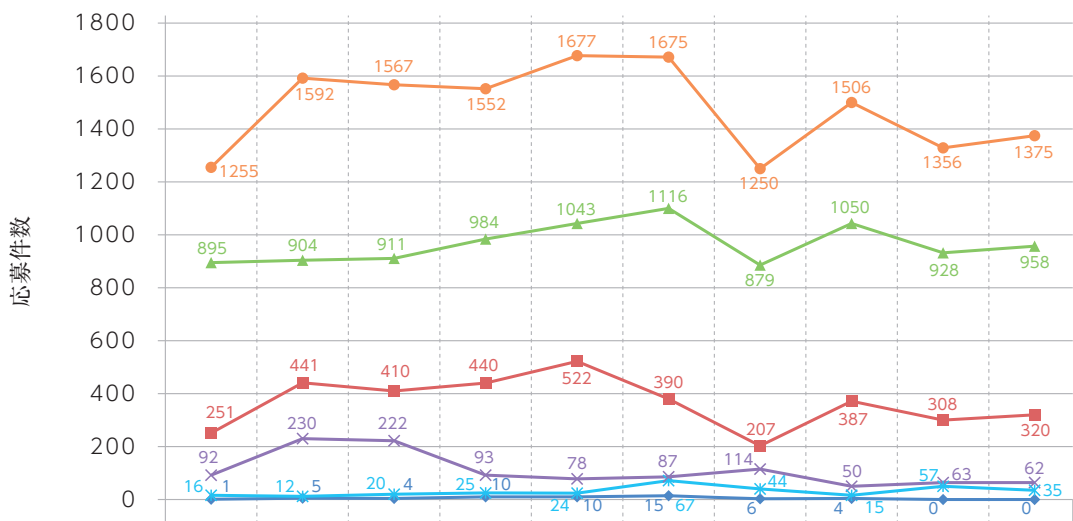
【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついでには、全校園よりエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟（現聞光館）キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）

●KOKAエコアワード応募作品数の推移



部門	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
◆ エコアイデア	1	5	4	10	10	15	6	4	0	0
■ 作文	251	441	410	440	522	390	207	387	308	320
▲ 標語・短歌(和歌)	895	904	911	984	1043	1116	879	1050	928	958
✕ ポスター	92	230	222	93	78	87	114	50	63	62
✧ 作品	16	12	20	25	24	15	6	4	0	0
● 全体	1225	1592	1567	1552	1677	1675	1250	1506	1356	1375

●令和6年度受賞作品（金賞・銀賞・銅賞・第一生命特別賞のみ掲載）

※詳細は<https://gakuen.koka.ac.jp/archives/6523>をご覧ください。

①エコアイデア部門 ***** [今年度応募なし]

②標語・短歌（和歌）部門 *****

八教職員の受賞作品

温暖化
ではなくもはや
沸騰化
エコ活動で
守ろう地球



受賞者

地域連携推進センター
橋詰 侑季

おでかけは
交通機関で
スマートに



受賞者

小学校 高村 涼雅

無限でない
資源は大切
リサイクル



受賞者

幼稚園 梅田 啓鼓

「もったいない」
子につつまれ
はつとする



受賞者

地域連携推進センター
中村 詩絵

八学生・生徒等の受賞作品

リサイクル
ごみがみらいへ
へんしんだ



受賞者

小学校 2年生 渡部 叶翔

環境を
みんなで守る
チーム戦



受賞者

中学校 2年生 森本 さら

まずは知る
インターネットの
深い海
本物の海で
起こる悲劇を



受賞者

高校 1年生 北川 由奈

考えよう
エコな社会を
目指すため
ひとりの意識が
未来を照らす



受賞者

大学 2年生 布川 真愛

八卒業生・保護者等・関係先様の受賞作品

楽しもう
秋の夜長の
ストレッチ
スマホも閉じて
早めの消灯



受賞者

本学園が取り組む環境活動に
関心のある方

トキを経て
絶滅危惧種になりました



受賞者

卒業生（2013年度
ライフデザイン学科）
室生 英紗子さま

ああ暑い
今年は蜩鳴いたかな
四季を感じず危機を感じる



受賞者

S M B C日興証券株式会社
三谷 圭奈子さま




エコ活動も
つたないが合言葉



受賞者

本学園が取り組む環境活動に
関心のある方
中村 英義さま

③ 作文部門 *****

- | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 
金賞 | 受賞者
「わたしができるエコ」
小学校 5年生 橋本 和樹 | 
銀賞 | 受賞者
「ウッドチップの可能性」
高校 1年生 佐藤 寿咲 | 
銅賞 | 受賞者
「環境問題を考えよう」
小学校 5年生 五ノ井 岳 |
|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|

④ ポスター部門 *****

受賞者
 「はじめよう
 地球のためにリサイクル」
 小学校 4年生 林 さくら




金賞




銅賞

受賞者
 「自然で見つけたきれいな色」
 幼稚園 すみれ組(年長) 渡部 美玲




銀賞

受賞者
 「あなたのその行動で失われる生物のページ」
 高校 3年生 東野 桃子

⑤ 作品部門 *****



受賞者
 「きずつけないで!
 ぼくのきれいなしぜん」
 幼稚園 すみれ組(年長) 藤尾 碧空


銀賞


金賞

受賞者
 「カラフルアクアリウム」
 小学校 3年生 内田 弾




銅賞



受賞者
 「ふんわり
 くらげふうりん」
 小学校 3年生 井上 ひな乃

5. 各校園の環境教育、 環境活動



Koka Kindergarten



Koka Elementary School

*Kyoto Koka Senior High School
Kyoto Koka Junior High School*



*Kyoto Koka Women's University
Kyoto Koka Women's College*



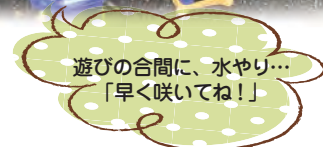


これは何の葉っぱかな？
楽しみにしながら
毎日、水やりをします。



参観日には親子で花の種まきをしました。土に触れる
機会が少ない子どもたち。慣れない作業に苦戦しまし
ましたが、綺麗に花が咲きました。

こんなに大きくなりました。



幼稚園の畑にさつま芋の苗を植えました。
葉がたくさん広がり楽しみにしていた収穫の日が来ました。
今年は豊作だったのでホットプレートで焼いて、みんなでいただきました。



お芋からつるが伸びて、その先に葉っぱが出ていることを発見しました。



太陽の光をいっぱい浴びてぐんぐん大きくなったお芋は大豊作！掘っても掘ってもところどころと土の中から出てきました。

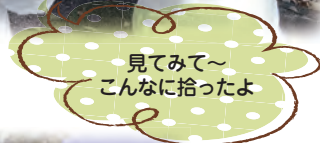


ほっぺが落ちそう～
美味しくいただきました。





各学年で遠足に出かける際に持って行くどんぐりポシェットは、紙コップや牛乳パックなど再利用し手作りしています。



いっぱいとれたか確認中



ポシェットの底からどんぐり発見!



取った後の朝顔と、るこう草のつるでリース作りをしました。



まつぼっくりも飾って、素敵なリースが完成!



5.2 光華小学校

① 光華環境DAY（9月6日）

例年9月はじめには「光華環境DAY」として、全校で現在の地球環境問題について知り、児童各自のできる身近な環境問題の解決方法・環境保護につながる活動などについて話し合ったり、取り組んだりする日となっています。はじめは徳風館小講堂にて専門家の方の講演を聞き、その後、各クラスに分かれてそれぞれの環境活動に取り組みました。

① 全校での取り組み ～京都光華女子大学・高野 拓樹先生の講演～

京都光華女子大学の高野拓樹先生をお迎えして、「クイズに答えて地球にいいこと考えよう」と題した講演をしていただきました。ひらがなの文章や動物のかわいいイラストなどを使って工夫を凝らしたスライドで、低学年児童にもわかりやすく「今、地球で起きていること」を説明していただきました。高野先生自身、世界のあちこちに実際に足を運ばれ、環境がどんどん悪化している様子を見て、それに少しでも歯止めをかけるためのプロジェクトに参加する等、精力的に活動されているそうです。子どもたちも熱心に聞き、質問もたくさん出ました。

「電気を節約する」「水を大切に使う」「ゴミを減らす」など、高野先生に提示していただいた「ちきゅうにいいこと10こ」を、私たちも心がけて生活していきたいと思いました。



② 各学年の取り組み

【1年生】 …1年生の身の回りにも、たくさんの環境問題が存在するということを知らせるために、食品の容器（紙パック・ペットボトルなど）を家から持って来れるだけ持って来て、普通ならそのままゴミになるところを、エコ工芸としてかわいい／かっこいい作品に生まれ変わらせる時間としました。ネコや犬、恐竜などの生き物を作ったりロボットを作ったり・・・1年生ならではのかわいらしい作品たちがいっぱいできました。環境問題は、1人だけ・1回だけ行っても意味がありません。子どもも大人も、この国に住む全員が継続的に、使命感をもって取り組むこと、義務ではなく習慣として取り組む必要があると考えています。児童たちには、学校でも家でも自分でできる活動をずっと続けていける人になってほしいです。





[2年生] …2年生はエコ標語に挑戦しました。標語を作成するにあたり、高野先生による講演「クイズに答えて地球にいいこと考えよう」の中からエコ活動に関する言葉を思い出しながら、各々発表していました。「分別」「リサイクル」「海洋プラスチック」「買い物袋」等のキーワードを念頭に、児童それぞれが思い思いの標語を作っていました。できあがった標語は、教室前のコモンスペースに掲示しました。2年生だけでなく、廊下を歩く他学年の児童にも日常的に環境問題を意識するきっかけを作ることができたと思います。



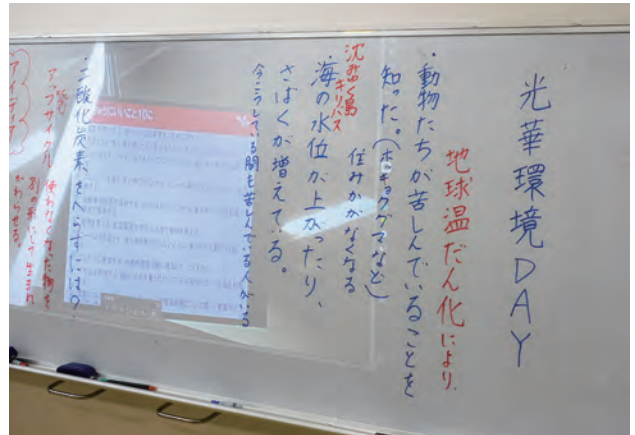
[3年生] …夏休みの課題で取り組んだ「エコ工作作品」の鑑賞会を開きました。普段気にせず捨ててしまう空き容器やトイレットペーパーの芯などが、子どもたちの手によって生まれ変わり芸術作品に。同じ大きさの空き缶を積み上げて城を作ったり、ペットボトルを水槽に見立てて水族館を開いたりとその作品は十人十色。元の材料の形や性質を生かしながら作られた力作をお互いに鑑賞合いました。友達の作品の工夫されている部分や、こだわりのポイントも発見し、お互いを認め合う機会にもなったと思います。普段は捨ててしまうような物も、工夫次第で素敵なものへと生まれ変わらせることができるということに子どもたちは気づいていました。今回の活動が、リサイクルを始めとした環境への取り組みについて考えるきっかけとなったのではないかと思います。



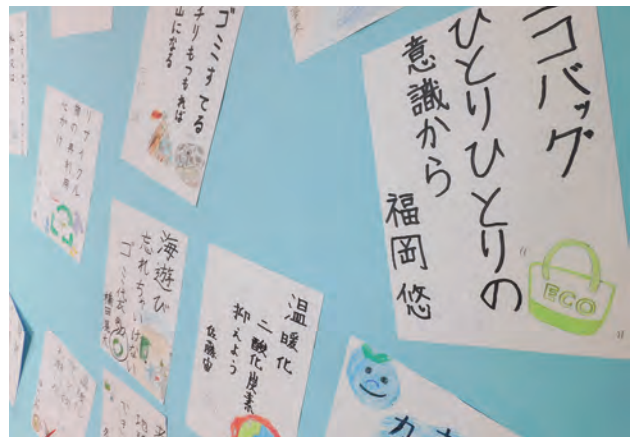
[4年生] …4年生は、1学期から社会科でゴミのことや水のことなど、自然環境について学習しており、京都市南部クリーンセンター「さすてな京都」へ社会科見学にも行きました。学習で得た知識や体験活動を通して、自分が一番伝えたいこと、訴えたい気持ちを考え、そしてそれを相手に伝えるためにはどうするのが良いか、じっくりと時間をかけて全員が取り組んでいました。児童たちはゴミ処理の問題が一番心に残ったようで、分別の大切さや、ゴミを減らすことを訴えるポスターがたくさん出来上がりました。鑑賞会では、みんなが地球のことを思っていることをお互いに認め合う、良い時間になりました。



[5年生] …年度当初より「環境問題」について、個人でテーマを設定し、調べ学習を行いました。生活の中や新聞のニュースなどで気になった環境に関する問題点を出し合いました。個々で行った調べ学習としては、ごみの問題、二酸化炭素を減らすための取り組み、オゾン層や森林破壊、絶滅危惧種、地球温暖化などさまざまなテーマが挙げられていました。調べた内容をリーフレットに分かりやすくまとめ、その後、環境問題について全体で考えました。光華環境DAYでは中間報告として、これまでの調査や話し合ったことなどをもとに、「環境問題」をテーマにした作文を書きました。9月には「海と日本プロジェクトin丹後」プロジェクトで、フィールドワークを通して海の環境について学びました。そのフィールドワークを切り口に、「海洋」に焦点を当てた環境問題についてより深く調べる活動を行いました。11月には、それまで学習してきたことをまとめ、発表し合いました。



[6年生] …6年生は、前年度に年間を通して海や山の環境について調べ、実際に足を運んで体験し、大学の先生からお話を聞くなど、環境問題については既にたくさん学習してきました。そして令和6年度の光華環境DAYでは、よりよい環境づくりのための『エコ標語』を作成しました。今まで環境について学ぶ中で感じたことや、自分にできること、みんなに知ってほしいことなど、それぞれ思いを込めて標語を作り、イラストを添えて完成させました。たくさんの人に見ていただき、一人でも多くの人に環境に関心を持ってもらえるよう、一年間廊下に掲示しています。



② 「海と日本プロジェクトin伊根町」(9月8～9日：5年生)

KBS京都主催「海と日本プロジェクト」に5年生の代表児童が参加しました。

今回は世界的に一度絶滅危惧状態になってしまったクロマグロについて伊根町で行われている独自の養殖方法を学び、資源を有効活用する必要性について知るとともに、二日間の海での体験を通じて、「海で起きている変化」を実感し、美しい海を守るために何をすべきかを考える機会となりました。

1日目は遊覧船に乗って生簀の見学やマグロのつり上げを見たり、水中ドローン映像を見ながら生簀内の様子やマグロの養殖について教えていただきました。また、目の前で行われたマグロの解体ショーでは、大きく成長したクロマグロがどのように解体されるのか、またどんな部位があるのかなどを教えていただくとともに、実際にマグロに触れ、調理することで食べることの楽しさや美味しさをあらためて感じる事ができました。

2日目の定置網漁の体験活動では、何時間もかけて作業される漁師さんの様子や伊根湾に生息するさまざまな魚を見たり、触れたりすることができました。帰港後は市場をもたない伊根での魚の選別方法や出荷作業、魚屋がない伊



根での浜売りの様子を見せていただきました。

近年は温暖化や海水温の上昇など環境が大きく変化していくなかで、獲れる魚にも変化が起こってきています。地元の方々のさまざまな取り組みに触れ、また体験を通して地球環境の悪化について理解するとともに、どうすれば持続可能な生態系を維持できるのかを考える貴重な活動となりました。

③ 林間学習（8月2～4日：4・5年生）

8月早々、4・5年生は夏休み前からずっと楽しみにしていた林間学習に出かけました。1日目はヘルメットや安全金具を装着して、森の中でのアルプスアドベンチャー（本格アスレチック）を楽しんだり、四苦八苦しながら、飯盒で野外炊飯（カレー作り）作ったりした後、夜は本当に真っ暗な山道を歩くナイトツアーを行いました。2日目は雄大な鉢伏山麓にてグループごとのオリエンテーリングを行い、たくさん歩いた後、自分で作ってきたお弁当をきれいな空気の中で美味しくいただきました。夜はバーベキューでお腹を満たした後にキャンプファイヤー。レク係の工夫で楽しく活動ができました。そして最終日、お土産の「勾玉」作りを頑張った後、大きな鉄板で作った焼きそばを食べて全行程終了となりました。現地のスタッフの皆様には大変お世話になりました。豊かな山の自然の中、みんなで食事や入浴、就寝などの集団生活が新鮮で、互いの絆もより深まったことでしょう。豊かできれいな山のことを、長く記憶しておいてほしいものです。



④ 琵琶湖疏水見学（11月14日：4年生）

4年生は社会科の「琵琶湖疏水」の学習のまとめとして、蹴上のインクラインとその周辺を見学・散策し、疏水の流れに沿って南禅寺内の水路閣まで歩いて見学をしました。明治時代に多くの費用と困難のすえ完成した疏水の意義や現代に遺したもの（現在の京都市民にとっても貴重な水を供給してくれていること）を実際に肌で感じながら学ぶことができました。動物園でお弁当を食べたあと、最後は京都市疏水記念館にて授業で学習したことをさらに深く学びました。みんな集中して展示物などに向き合い、時間が足りないほどでした。最後は全長582mのインクラインの線路を楽しく歩いて1日を締めくくりました。





5.3 京都光華中学校・高等学校

① 探究学習「京都+ベンチャー」^{アド}での成果：QUESTCUP2024全国大会に出場！

総合的な探究の時間のことを、「京都+ベンチャー」という愛称で呼んでいます。高校2年生はその中の活動で教育と探求社の「クエストエデュケーションCA」に取り組み、各企業から出されたお題をもとに、自分たちで考えた企業人としての提案を1年かけて作り上げています。キモノハーツのお題に取り組んだ「桜文」チームは、捨ててしまう着物の再利用を提案しました。視覚的な印象が強い着物を、「香り玉」として嗅覚を刺激する新たな再利用法を提案し、成果発表の大会である「QUESTCUP2024」で全国大会への出場を果たしただけでなく、キモノハーツのお題に取り組んだチームの中で1番となる「企業賞」も獲得しました！

ほかにも、塩野義製薬のお題に取り組んだ「アスパラガス」チームは、塩野義製薬が持つリソースを活用した発展途上国でのさまざまな支援の提案を行いました。寄付に依存しない持続可能な支援活動にするために、実験農場の現地への移転を提案し、研究と現地の第一次産業の発展を同時に行う仕組みづくりの提案をするに至りました。いずれのチームも、現代の資源等の課題に真剣に向き合い、悩みぬいた結果得られた発想で、全国大会出場という形で評価をいただくことができました。



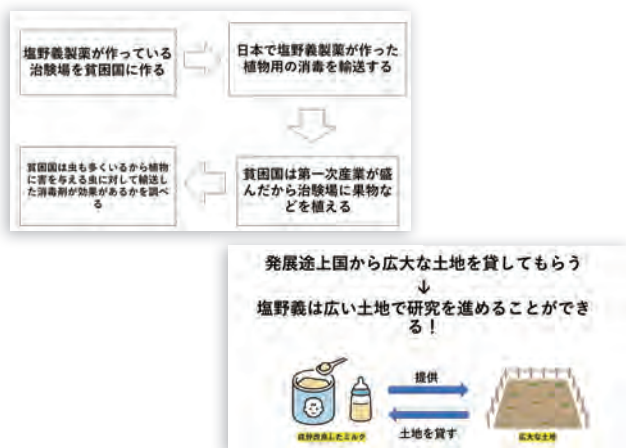
全国大会での発表の様子（明治大学中野キャンパスにて）



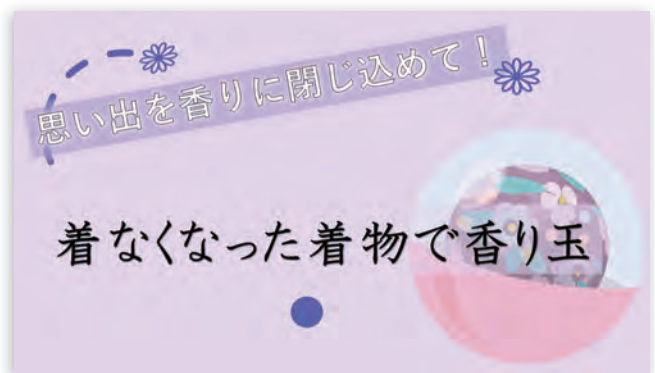
チーム桜文、企業賞を受賞して記念撮影！



キモノハーツ社員の方と記念撮影



発表スライドの一部（アスパラガス）



発表スライドの一部（桜文）



5.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

① 里山フィールドワーク

令和6年6月29日（土）、キャリア形成学科の3年生ゼミ（高野ゼミ）で里山フィールドワークを実施しました。このゼミでは、環境やエネルギー、防災をテーマとして学んでいます。今回、京都大学フィールド科学教育研究センターの上賀茂試験地の協力を得て、里山フィールドワークを実施しました。上賀茂試験地は竹や松といった里山を代表する植物の世界的にも有名な研究機関のひとつです。

冒頭では、ゼミ教員からこのフィールドワークの趣旨を説明し、人と自然の共生について解説しました。次いで、上賀茂試験地の教員の方から、同試験地の歴史や業務内容についてご説明いただきました。そして、メインであるフィールドワークでは、試験地内における竹や松に関する実験の他、シカやイノシシなどによる獣害の現状を学ぶことができました。途中でネイチャーゲームなども取り入れ、普段はあまり経験することのない大自然の中で、楽しく学習することができました。



② 光華環境DAY（光華小学校での講演）

令和6年9月6日（金）、併設の光華小学校1年生から6年生までの児童約230名を対象に、「クイズに答えて地球にいいこと考えよう」と題した講演を実施しました。光華小学校では毎年秋ごろに、環境啓発イベント「光華環境DAY」を実施しています。講演では、地球温暖化やごみ問題、生物多様性など多岐にわたる内容を、クイズやアニメ、動画を取り入れた児童参加型の内容で実施しました。また、当日は、1年生から6年生の児童が、エコ工作、エコ標語、エコポスターなど学齢に合わせた成果物を披露しました。最後に、令和6年度に採択されたJST次世代チャレンジプログラムの案内を5年生と6年生に行いました。この次世代の科学者・研究者を養成するプログラムには、多くの小学生に参加してほしいと思います。



③ もし巨大地震が発生したら（VR環境・防災学習）

今年の夏も観測史上最高の暑さになりました。また、令和6年1月には能登半島沖地震が発生し、今後も南海トラフ巨大地震など、いつ大きな災害に直面するかわかりません。しかし、温暖化や巨大地震などによる被害は、実際にあってみないと想像するのは難しいものです。

そこで、今回は「もし日中の気温が50℃を超える日が続いたら」「もし、授業中に巨大地震が発生したら」という内容のVR動画を専用ゴーグルを使って視聴しました。動画はすべて、京都光華女子大学のキャンパスや教室をCGで再現したものです。実際に起きていないことでも、VRでリアルに体験することによって、未来を想像することができ、これが日々のエコ活動や防災活動につながります。VRで広がるリアルな世界に、学生は驚きの声をあげていました。



④ 循環型社会を目指す取り組み

SDGs、カーボンニュートラル、ゼロウェイスト・・・大きな社会課題に対して私たち一人ひとりができる身近な一歩は何でしょうか。キャリア形成学科では、専門的な学びを提供する授業や課外活動において、社会課題を自分ごととして捉えアクションを起こす、学生による主体的な取り組みをおこなっています。ここでは、衣類廃棄による環境問題に着目した取り組みを報告します。

キャリア形成学科の専門科目「プロジェクト実践」クラスbでは、衣装としての役割を果たしたウエディングドレスをリメイクし、アップサイクルプライダルファッションショー「our 5 scenes」を企画開催しました。24名



アップサイクルプライダルファッションショーの様子



の受講生が5つのチームに分かれ、挙式、乾杯、バルーンセレモニー、フォトセッション、両親へのメッセージの5つのシーンを担当し、一連の挙式と披露宴しながらに演出しました。各チームは、挙式は厳かに、バルーンセレモニーは華やかに、両親へのメッセージは未来への輝き、といったシーン別のコンセプトを紡ぎ出し、それぞれのイメージするテーブルコーディネイト、リメイクドレスを制作しました。令和6年7月20日(土)のオープンキャンパスで迎えた本番では、観客席から笑顔や涙も見られました。リメイクによる活用の可能性を感じた経験でした。



ドレスリメイク制作の様子



私たちのSDGs2024の様子



循環フェス ファッションショーの様子

キャリア形成学科 宮原 佑貴子 講師が担当する応用ゼミⅠ～Ⅳでは、アパレル関連企業から提供いただいた繊維廃材を用いて制作したアップサイクルファッションを展示販売しています。企業や一般の方々との交流を図る「私たちのSDGs2024～繊維製品の循環を目指して～」(場所:京都文化博物館 主催:日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会)への参加、京都ハンナリーズから提供いただいた、役割を果たしたバスケットボールユニフォームのリメイクファッション制作と「循環フェス」(場所:梅小路公園 主催:株式会社ヒューマンフォーラム他)ファッションショーの参加、



京ベジフェスタ ワークショップの様子

京野菜の繊維系廃材を用いた抄紙技術によるシート開発と商品企画、KYOTO UPCYCLE BRANDのブランディング(京都府「令和6年度大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業」採択事業)の活動で「京ベジフェスタ2024」(場所:梅小路公園 主催:JA京都市)に参加しワークショップを実施するなど、さまざまな活動に取り組んできました。

これらの活動に共通するのは、企業の協力によって、一般消費者の立場では日頃目にすることのない、まだまだ使える廃棄予定の素材と出会い、それらに向き合い、自らのアイデアによって身近なアイテムに生まれ変わらせ、地域とつながりのある場面で提案するという点です。見慣れたものも、視点を変えることによって全く新しい使い道を見出すことができます。これは、新たな価値の創出となります。

学生たちはこれらの取り組みを通して、環境問題に対して様々に考える機会を経験しました。今後、それぞれの場面において社会課題解決につながる身近な一歩を踏み出してくれることでしょう。

6. 第三者によるご意見

地域連携報告書・環境報告書に寄せて

学校法人光華女子学園におかれましては、「すべての人が健やかに暮らせる“Well-Being”な未来の実現」を目指した様々な地域連携活動と、「美しい地球、住みよい環境を継承するため」の環境教育・環境活動に、大変熱心に取り組んでいただき、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

京都市では、これまで住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、登下校時や高齢者の見守り、環境・美化活動や防犯活動など、地域住民主体の取組が、地域のつながりづくりや、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつながっています。

しかしながら近年、単身世帯の増加、ライフスタイルの多様化などにより、地域のつながりの希薄化や担い手不足などが大きな課題となっており、新しく関わってもらえる方をいかに作っていくかが重要になります。

そのような中、令和7年度からは、これまで以上に区役所が自治連合会をはじめとする地域団体、企業や商店、大学、福祉施設、NPO法人等、多様な主体のつながり・むすびつきをコーディネートする結節点となり、持続可能な地域コミュニティの実現に取り組んでいくこととしております。

地域連携報告書を拝見し、これまでから行政、地元の企業や商店街、福祉法人など多岐に渡り連携され、すでに地域をつなぐ結節点として取り組んでいただいております。大変心強く感じています。

また、環境報告書では、園児から大学生まで、それぞれの成長に応じた「エコ活動」に途切れることなく取り組まれていることは、自然と環境について意識し、地球にやさしい生活が身につくものとして、素晴らしい取組だと思えます。

右京区役所といたしましては、今後ともより一層、学生の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様と連携させていただき、すべての人に「居場所」と「出番」がある“Well-Being”なまちの実現を目指して一緒に取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

右京区長
人見 早知子





健やかな明日が華ひらく

地域連携推進センター教職員

関 道子 (センター長・大学 看護福祉リハビリテーション学科)
藤原 加織 (副センター長) 橋詰 侑季 (センターマネージャー)
中原 郁子 (センター職員)

地域連携推進委員会

西川 智文 (大学 健康栄養学科) 西田 美紀 (大学 看護学科)
徳田 仁子 (大学 心理学科) 関 道子 (大学 福祉リハビリテーション学科)
佐藤 嘉洋 (大学 キャリア形成学科) 西野 夕子 (大学 こども教育学科)
羽深 太郎 (短期大学部 ライフデザイン学科) 頭山 高子 (短期大学部 歯科衛生学科)

環境教育推進室教員

金治 宏 (室長・大学 キャリア形成学科) 間浦 幹浩 (中学校・高等学校)
矢野 雅東 (小学校) 深谷 麻友 (幼稚園)

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書
光華女子学園 環境報告書 令和6年度版

令和7年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

URL : <https://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターウェブサイト)

本報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。

お問い合わせ : chiiki@mail.koka.ac.jp



地域連携推進センター
ウェブサイト



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園

